

知事との県民対話集会（北相木村）概要

- ・開催日時 令和5年1月17日（火） 午後3時から午後4時30分まで
- ・会場 北相木村中央公民館 しゃくなげホール
- ・参加者 県民42名、井出北相木村長、阿部知事、高橋佐久地域振興局長
- ・テーマ 村を存続させるためには

・主な発言（要旨）

【参加者】

・オンラインで学ぶことができる機会が増えたとはいえ、過疎地域においては学びの機会が学校と家庭以外にない。受験を考えると山村留学で来てもこの地を離れてしまうという話も聞く。県内のどこに住んでいても学びの機会を得られるよう公教育に期待したい。

【知事】

・県全体としては学びの多様化を進めていきたい。ISAKや大日向小学校などができたことで移住される方も多くいる。このような学校を増やすよう取り組んでいきたい。
・信州やまほいくと小中学校の接続についてしっかり考えたい。フリースクールは、県としての認証制度をつくっていききたいと考えている。
・長野県は夏は避暑を兼ねて勉強する場だった。大学などの協力を得てサマースクールを開講してもらい、そこに県内の子どもたちを入れてもらったり、山村留学に県内の子どもも行けるような形も考えたい。

【参加者】

・オランダやスイスでは多くの企業が環境問題に取り組んでいる。市民の環境意識も高い。長野県は他県に比べ環境への意識は高いと思うが、これらの環境先進国に比べまだ意識が低いと感じる。県内には環境問題に取り組む活動の場が少ない。県民の環境への意識を盛り上げていく機会を増やすことや環境活動をしようとする人々への支援が大切になると思う。

【知事】

・長野県は、他県に先駆けて気候非常事態宣言を行った。長野県は国内では環境意識は高い県だが、海外に比べれば低いというのはそのとおりだと思う。先日、「くらしふと信州」という場をつくった。いろいろな人の知恵を結集して脱炭素に取り組んでいく。
・エンカル消費に力を入れたい。環境にやさしいものや障がい者が作成したものを買う、子どもの強制労働によってつくられたものは買わないなど、消費者の選択で社会を変えていくといったことが、日本ではまだ徹底されていない。消費者が考えて行動すれば社会を変えていけると思う。

【参加者】

・令和2年に村内に林業の会社を立ち上げた。村の存続のためには人口増が必要。村内居住の場合、家賃は全額会社が補助するか社宅を供給している。家があることは移住にとって大事な観点。行政としても考えてほしい。
・木材搬出のために10tトラックで入る道を整備してもらっているが、入口の農道、村道が狭い。
・東信地域は素材生産が最も盛んであり、実業高校に林業を学べる学科を設置してほしい。学科がないので林業大学校に接続できない。

【知事】

・事業所で社宅をつくるまでやっていただきありがたい。事業所の皆さんと住宅のことを考える場を考えないといけない。
・林道については、縦割り行政の弊害かもしれないが、考えていきたい。
・高校の林業科については、地域振興局長から地域の声を教育委員会に入れてほしい。地域の産業でどれだけ人材のニーズがあるかを考えないといけない。

【参加者】

・村内小規模事業者の27社中25社が商工会に加入しており、加入率は県内トップクラス。しかし、コロナ禍、円安等により売り上げが減少しており、また、後継者不足で廃業退会が増えている。一方で、移住者の起業が村の経済活性、雇用創出に貢献している。小規模事業者への手助けをお願いしたい。

【知事】

・例えば、床屋をやめる人がいる場合、床屋を始めたい人を個別に募集することを考えられないか。25の商工会加盟事業者のうち跡取りがいるところはだいたい分かるのでは。その商売を地域で継続してくれる人をどうやって探していくか個別に考える余地はあると思う。

・他の町村では移住した人が店を開けて商店街が元気になった例もある。

【参加者】

・民間の調査機関によると、あと15年で村の人口は300人になってしまうというデータがある。財政力指数は、北相木村が0.15で、近隣町村の中では一番低い。人口が減る中でこの財政力でどうやっていけばよいかアドバイスをいただきたい。平成の大合併で臼田町と佐久市が合併した。小海町との合併も視野に入れることも考えなければならないと思う。

【知事】

・財政力指数が低い場合は交付税措置がされている。町村の方がきめ細かな政策を打てることもある。単に財政力指数だけで評価するのは難しい。

・小さな町村の課題については発想を逆転させないといけない。課題は人を呼び込むチャンスでもある。マイナスをどうプラスにするのか。みんなで知恵を出し合う必要がある。

・デジタル化で地理的障壁はある程度乗り越えられるようになってきている。物の売買、テレワークなど、そういう社会の変化を村でプラスにもっていくということを皆さんと一緒に考えていきたい。

【参加者】

・村にいと教育の面で不利と実感する。最終的に大学進学を考えると住み続けることは難しい。こうした課題の解決に力を注いでほしい。

・温暖化によって農産物の適地が移動している。ここ10年くらい「こんにやく芋」をつくっている。県でもいろいろな農産物の栽培について研究してもらいたい。

【知事】

・どこ住んでいてもしっかりと教育を受けられるようにすることは重要である。高校生と話をすると共通して交通の便が悪いという話をもらう。教育のあり方は、教育委員会からの観点だけでなく、この交通の話や遠隔教育など、しっかり受け止めて取り組みたい。

・農産物は温暖化で適地になってくるものがあるので、農政部の試験場でよく取り組みたい。